

● ● ● 児童・生徒の学力向上を図るための調査 ● ● ●

義務教育指導課長 川越 豊彦

夏季休業期間に入り暑い毎日が続く中、各学校では、研修、補習指導、水泳指導、部活動などに取り組みられていることと思います。

さて、7月2日（木）に、小学校第5学年の児童及び中学校（中等教育学校）第2学年の生徒を対象とした平成27年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施しました。実施に当たっては、区市町村教育委員会をはじめ、各学校におかれましては、円滑かつ適正な実施に御協力いただき、ありがとうございました。

この夏季休業期間を活用して、採点や調査結果の集計に取り組んでいただいている学校もあろうかと思えます。このことにつきましても、重ねて感謝申し上げます。

都教育委員会は、各学校で集計した調査結果を踏まえ、東京都の子供たちの学力の状況を分析し、広域行政を担う立場から、東京都の子供たちの学力を向上するため、少人数・習熟度別指導の推進や学力ステップアップ推進地域指定事業などを展開しています。また、区市町村においても、学力向上のための様々な独自の施策を展開しています。これらの学力向上施策を実効性のあるものにするためには、子供たち一人ひとりの教育を担っている先生たちの力が不可欠です。調査の結果から子供たちの学力の状況を把握し、子供たち一人ひとりに寄り添った指導を重ねていくことが何より大切です。東京都の子供たち一人ひとりが「確かな学力」を身に付けることができるよう、引き続きよろしく願いいたします。

目次

- 平成27年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を終えて・・・・・・・・・・p.2
- 道徳教育の窓・・p.6
- 理数教育の窓・・p.7

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存知ですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にさせていただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、順次「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

「学び応援ページ」を御活用ください！

**東京ベーシック・ドリルも
掲載しています！**



東京都教育委員会ホームページ・トップページ
の下の方に、このリンク用バナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

平成27年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を終えて 課題やつまずきの把握から授業改善へ

7月2日（木）、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施しました。この調査の結果から、児童・生徒一人ひとりの学習上の課題やつまずきの状況を把握し、授業改善へとつなげる取組の例を紹介いたします。

中学校・国語

書く能力

(3)「段落の役割を考えて文章を構成することができるか」をみる問題

どの選択肢を選んでいるかを分析することで、児童・生徒が既習の内容のどの部分に課題があるのか、どこでつまずいているのかを把握できるように、調査問題を作成しています。

誤答の分析から 課題を把握



< アを選んだ生徒 >

先に述べたことの原因を、適切に続けて構成することができなかった。

意見を述べる際などに、理由や根拠を明確にするよう指導する。

< イを選んだ生徒 >

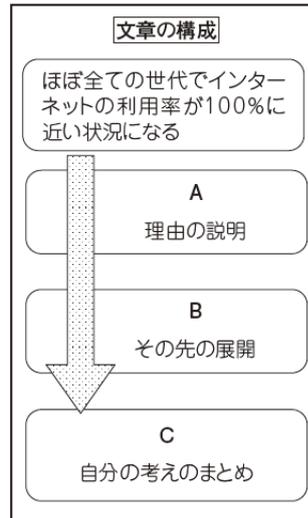
事実と自分の考えとを区別して、まとめとして適切に構成することができなかった。

説明的な文章を読む際に、事実と意見、考えとを分類・整理しながら読むよう指導する。

< エを選んだ生徒 >

事実や考えを順序立てて分かりやすく構成することができなかった。

因果関係を明らかにして書いたり、筆者の思考の流れを追いつつ読みながら読むよう指導する。



エ	ウ	イ	ア
②	③	②	①
③	①	①	③
①	②	③	②

正答

① 世代間によるインターネットの利用率についての格差がますます縮まっていくことが予想される。

② インターネットを通してこれまで以上に様々な情報やサービスを受けることが可能な社会になると考えられる。

③ 二十年后には、現在95パーセント以上の利用率になっている30歳から49歳の世代が、50歳から69歳の世代になる。

(3) 次の①～③は、北見さんが授業で使うプリントにまとめとして書こうとしていることメモです。北見さんはこのメモをもとに、あとの文章の構成のようにまとめようと考えています。文章の構成のA～Cに入るメモの順番を示したものと最も適切なものを、あとのアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。



課題に応じた 手だての工夫

●この問題の正答率が低い集団に対しては・・・

段1つの文章を、文や段落ごとにバラバラにしたものを示し、再構成させる活動や、文章を読む際に段落ごとに「見出し」を付ける活動などに取り組みせて、文と文、段落と段落とのつながりやまとまりを意識させることが必要です。

各学校に配布した「採点要領」には、各教科の全ての問題について、問題作成の意図や誤答の要因と考えられる要素等の解説を載せています。児童・生徒一人ひとりの学習上の課題やつまずきの原因を把握し、より効果的な指導へとつなげるために、調査問題や「採点要領」を、ぜひ御活用ください。

調査問題を活用した「立ち戻る指導」について

～東京ベーシック・ドリルを活用して～

調査結果から児童・生徒の現状を把握した後、課題を解決するための具体的な手だてを考えましょう。児童・生徒一人ひとりのつまずきの箇所から、それに適した補充の問題を用意し、できなかった問題をできるようにすることが大切です。

【問題1】が答えられなかった児童は、100を単位として、九九が適用できる除法の計算に置き換えれば計算できるという、数の相対的な見方についての理解が十分ではないと考えられます。

立ち戻る指導として、東京ベーシック・ドリル4年3の練習問題に取り組みせましょう。

小学校・算数

3 たかしくんは、【問題1】と【問題2】の問題の答えを求めるために式を考えました。そして、それぞれの計算のしかたを、次のように説明しました。

【計算のしかた】の、からまでに当てはまる数を、それぞれ書きましょう。

なお、同じ記号には同じ数が入ります。

【たかしくんの説明】

【問題1】	【問題2】
電車の切符 ^{きっぷ} を3人分買ったら、2400円でした。 1人分の切符の代金はいくらかですか。	20.8mのリボンを26人で等分しました。 1人分のリボンの長さは何mですか。
式 $2400 \div 3$	式 $20.8 \div 26$
【計算のしかた】 2400円を、 <input type="text" value="ア"/> 円玉が24個分とすると、 $2400 \div 3$ の計算は、 $24 \div 3$ に変えて考えられます。 $24 \div 3 = 8$ これは、 <input type="text" value="ア"/> 円玉が8個分ということなので、1人分の切符の代金は <input type="text" value="イ"/> 円です。	【計算のしかた】 20.8mを、 <input type="text" value="ウ"/> mが208個分とすると、 $20.8 \div 26$ の計算は、 $208 \div 26$ に変えて考えられます。 $208 \div 26 = 8$ これは、 <input type="text" value="ウ"/> mが8個分ということなので、1人分のリボンの長さは <input type="text" value="エ"/> mです。

【問題2】が答えられなかった児童は、0.1を単位として、小数を整数に置き換えれば計算できるという、数の相対的な見方についての理解が十分ではないと考えられます。

立ち戻る指導として、東京ベーシック・ドリル4年9の問題に取り組みせましょう。

4年 3 (2) 整数のわり算 一年 組 名前

1 わり算をしましょう。

① $96 \div 2$
② $48 \div 3$
③ $92 \div 4$
④ $65 \div 5$
⑤ $84 \div 6$
⑥ $578 \div 2$
⑦ $495 \div 3$
⑧ $972 \div 4$

2 わり算をしましょう。※あまりあり

① $77 \div 2$
② $59 \div 3$
③ $74 \div 4$
④ $78 \div 5$
⑤ $82 \div 6$
⑥ $179 \div 2$
⑦ $350 \div 3$
⑧ $659 \div 4$

4年 9 (2) 小数のわり算 一年 組 名前

1 わり算をしましょう。

① $31.5 \div 21$
② $78.3 \div 29$
③ $81.4 \div 22$
④ $76.8 \div 48$
⑤ $99.2 \div 32$
⑥ $52.9 \div 23$
⑦ $61.2 \div 18$
⑧ $58.8 \div 42$

⑨ $81.2 \div 14$
⑩ $57.2 \div 26$
⑪ $75.6 \div 36$
⑫ $87.5 \div 35$
⑬ $94.6 \div 43$
⑭ $95.4 \div 53$
⑮ $79.8 \div 57$
⑯ $73.5 \div 35$

児童・生徒一人ひとりの学習上の課題やつまずきの原因を把握し、より効果的な指導へとつなげるために、調査問題と東京ベーシック・ドリルをぜひ御活用ください。

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査問題及び解答や東京ベーシック・ドリルは、東京都教育委員会ホームページの  で御覧いただけます。



個人票作成プログラムによって作成される「個人票」や「間違えてしまったときの復習のポイント」を活用しましょう！

現在、採点や個人票作成プログラムの入力を行っている学校も多いことと思います。

個人票作成プログラムによって作成される「個人票」は、児童・生徒のつまずきに応じた指導に活用できるようになっています。その活用方法について、具体的に示します。

個人票の活用について

児童・生徒の各教科の回答状況（正答・誤答）を入力し、「出力」ボタンを押して実行することで、個人票等が作成されます。

抽出校（都内全体の約10%を無作為抽出した学校）の調査結果【速報値】を、8月下旬にお知らせします。プログラムにその数値を入力することで、「東京都」の欄にデータが表示されます。

この欄には、観点別の調査結果が表示されます。どの観点に課題があるのかを把握することで、例えば「国語に課題がある」ではなく、「●●の観点に課題がある」と、観点別に分析をし、今後の学習に役立てることができるようになっていきます。

表面

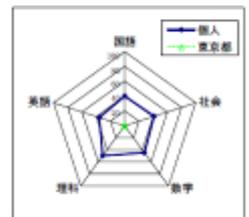
平成27年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」個人票

学年	組	出席番号
2	1	1

平成27年7月
東京都教育委員会

各教科の調査結果（正答数/問題数 下線は正答率を表しています。）

教科	個人		東京都	
	正答数	問題数	正答数	問題数
国語	11 / 28	28	1 / 4	4
社会	11 / 23	23	1 / 6	6
数学	12 / 23	23	1 / 6	6
理科	11 / 15	15	2 / 7	7
英語	7 / 22	22	3 / 6	6



◆観点別の調査結果（正答数/問題数）

教科	A 教科の内容					B 読み解く力に関する内容		
	関心・興味・意欲	思考・判断・表現	技能（読解・書写）	知識・理解（国語・英語）	読心	取り出す力	読み取る力	解決する力
国語	2 / 2	1 / 4	2 / 4	6 / 12	0 / 4	0 / 2	1 / 1	0 / 1
社会	1 / 2	2 / 4	4 / 6	4 / 11		1 / 2	0 / 2	0 / 2
数学	1 / 2	3 / 4	5 / 12	3 / 5		0 / 2	1 / 2	0 / 2
理科	1 / 2	4 / 5	1 / 3	5 / 9		0 / 2	1 / 3	1 / 2
英語	0 / 2	1 / 2	4 / 9	2 / 9		1 / 2	2 / 2	0 / 2

裏面

◆問題ごとの結果 ⇒ 「1」は正答、「0」は誤答または無解答です。

【復習の仕方】

①下の表で「0」になっている問題の番号の欄を、色で塗りましょう。

②個人票とは別に記される「復習する必要がある内容」にも、下の表で「0」になっている番号の欄を色で塗り、復習をしましょう。

③復習が終わったら、もう一度やり直し、できるようになったら番号を○で囲みましょう。

国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
社会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
数学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
理科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26				
英語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		

★得意とする科目は、「東京ベーシック・ドリル」を参考にしてください。復習する必要がある科目の問題番号が下の表に記載されています。

国語	社会	算数	理科
4 問題	2 問題	1 問題	0 問題

★本年度の「東京都立高等学校入試問題」の中で、今回の調査問題と関係のある問題が掲載されています。これらの問題の問題番号が下の表に示されていますので、ぜひチャレンジしてみてください。

国語	社会	数学	理科	英語
12 問	4 問	9 問	5 問	8 問

全ての問題について、正答であれば「1」、誤答・無解答であれば「0」が表示されるようになっています。

児童・生徒にどの問題を間違えてしまったのかを把握させ、間違えてしまった問題をできるようにさせることが大切です。その際、「間違えてしまったときの復習のポイント」を活用することができます。

（※次ページ参照）

本調査において間違えてしまった問題について、具体的に立ち戻る問題を示すために、「東京ベーシック・ドリル」の項目名が表示されます。中学校の個人票には、今回の調査問題と関連のある、今年2月に実施した都立高等学校入試問題の問題番号も表示されます。

「間違えてしまったときの復習のポイント」の活用について

個人票と一緒に、「間違えてしまったときの復習のポイント」を配布しました。本ポイントの活用方法例を、以下に示します。

ある児童の個人票(一部)

◆問題ごとの結果 ⇒ 「1」は「正

【復習の仕方】

- ①下の表で「0」になっている問題
- ②個人票とは別に配られる「まちが
- らんを色でぬり、復習をしましよ
- ③復習が終わったら、もう一度やり

国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1

個人票の結果から、誤答・無解答の問題を把握させ、その問題に対応した「間違えてしまったときの復習のポイント」をもとに、復習させます。

この児童は、社会の通し番号1の問題である、1(1)の問題を間違えてしまったのね。

「間違えてしまったときの復習のポイント」にあるように、「方位記号の矢印の向きを確かめて、地図上の東西南北を読み取ることに注意して、このような問題に取り組ませるようにするとよいのね。



間違えてしまったときの復習のポイント(一部)

【社会】		問題番号	通し番号	復習のポイント
1	(1)	1	1	方位記号の矢印の向きを確かめて、地図上の東西南北を読み取ること。
1	(2)	2	2	地図を見て、土地の利用の様子や、縮尺から実際の距離を読み取ること。
1	(3)	3	3	等高線の間かくから、土地の高低の様子を読み取ること。
2	(1)	4	4	2つの表から読み取った事実を基にして、「なぜ、スーパーマーケットには、たくさんの人が買い物に行くのだろうか？」などの問いを見いだすこと。
2	(2)	5	5	店内図から、スーパーマーケットの様子(品物の種類、並べ方、店内表示、設備、店員の仕事など)について読み取ること。
2	(3)①			品物が「安全・安心」であるということを、買い手に伝えるためのくふうについて考えること。

練習

1-(1) 地図から何が分かるかな 1年組 名前

1 次の方位記号の①～④に当てはまる方位を書きましょう。

(1))

ポイント 方位記号の矢印は、「北」をさしています。

ポイント 北の反対が「南」になります。北が上るときには、「東」が右、「西」が左になります。

2 次の地図を見て、下の①～③には当てはまる方位を、④～⑥には当てはまる建物を書きましょう。

間違えてしまった調査問題に再度取り組ませることで、間違えていた問題ができるようになったかを確認します。

調査問題

1 たけしくんの学級では、自分たちがくらすまちの様子を調べ、次の地図(学校の周りの様子)にまとめました。あとの(1)から(3)までの各問題に答えましょう。

地図(学校の周りの様子)



「間違えてしまったときの復習のポイント」をもとに、練習問題に取り組ませます。特に、個人票には、復習する必要がある「東京ベーシック・ドリル」の項目が表示されますので、ぜひ活用してください。

「道徳教育の窓」

— 東京の子供たちの豊かな心を育む —

「子供たちの規範意識を育むために」を作成しました

各小・中学校等における児童・生徒の規範意識の醸成を図る指導の一層の推進に向けて、小・中学校用指導資料「子供たちの規範意識を育むために」を作成しました。前半は、東京の子供たちの規範意識の現状や、確かな規範意識の醸成を図るためのポイント等を示した指導資料を、後半は道徳の時間等で活用できる資料を掲載しています。なお、各学校へは教員数分を配布いたします。



私たちは、家庭、学校、地域といった様々な「社会」の中で、周囲の人たちと関わり合いながら生きています。

もし、誰かが自己中心的な行動をとったり、誰かが「きまり」を守らなかったりしたら、その「社会」は秩序のない、生きにくいものになってしまいます。互いの関わり合いを大切にする思いや行動が、「社会」を成り立たせています。この、互いの関わり合いを大切にしていこうとする思いや行動の根幹となるものが規範意識です。「叱られるのが怖いから」、「誰かが見ていないから」…ではなく、主体的に「きまり」などを守ろうとする、確かな規範意識の醸成を図っていくことが大切です。

子供たちの規範意識を育むために〈道徳 資料編〉

外国人の目から見た、明治時代の日本人の姿とは・・・ 「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン」

題名は日本語で「昔むかし、日本で」という意味です。

明治時代に日本を訪れ、大森貝塚を発見したことで知られるモース。

モースの目に映った明治時代の日本の人々の姿を通して、子供たちに「規範意識」について考えさせることができる資料です。（授業で活用できるワークシートも掲載しています。）

落とし物を拾ったら・・・？

コラム1 正直の国 日本

もし、二千万円近くの現金が入ったバッグを拾ったら…？

海外の人たちを驚かせた日本人の行動とは？

日常生活を振り返り、お互いに心地よく暮らすにはどうすればよいかを考えさせることができるコラムです。

「あのとき」、私たちは・・・

コラム2 日本から学ぶ10のこと

平成23年3月11日に東日本を襲った大震災。日本中が大きな被害に立ち向かおうとしていたとき、一通のメールが世界中を駆け巡っていました。

人と人とが共に生きていくとはどういうことなのかを真剣に見つめ、考えさせることができるコラムです。



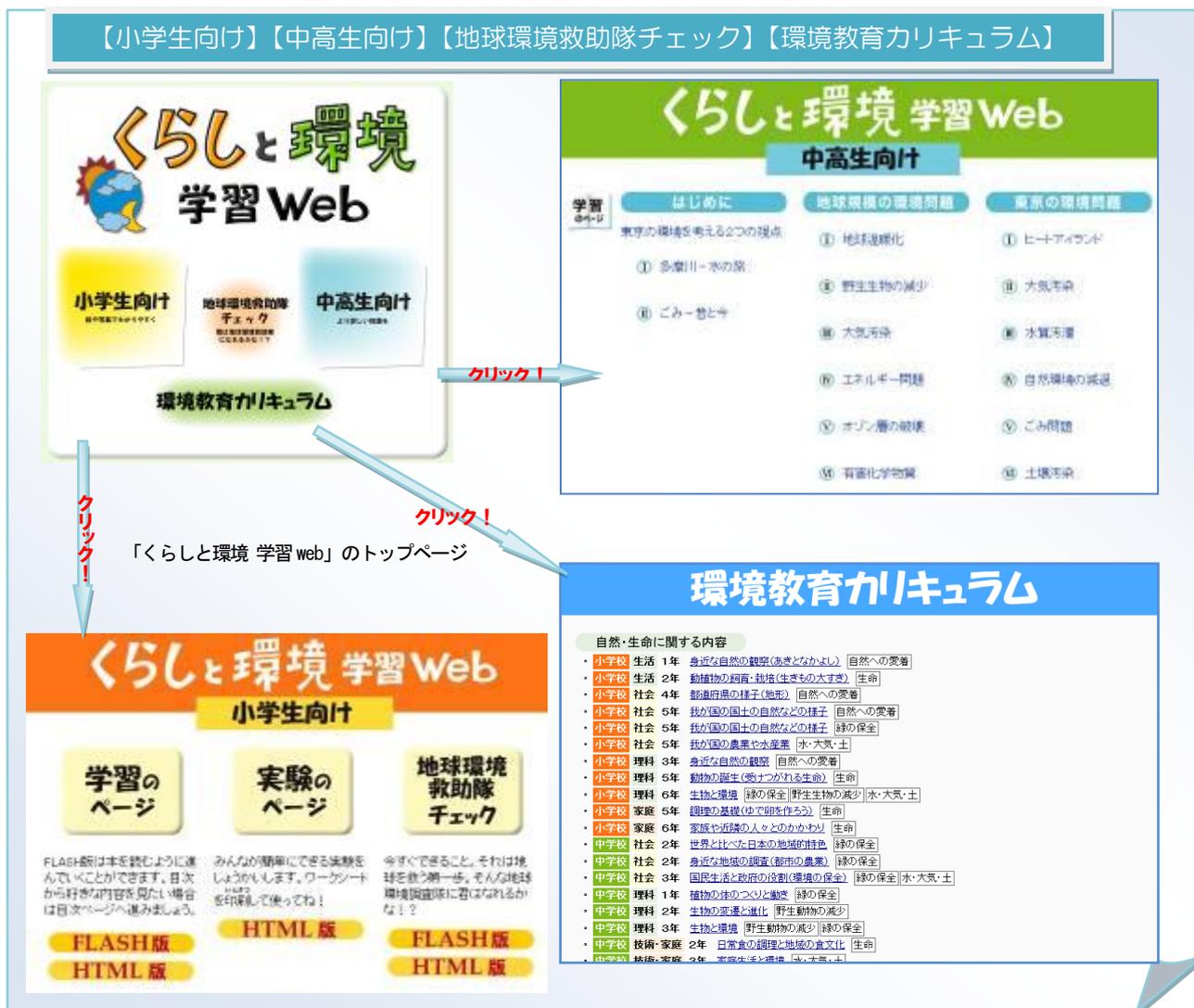
本指導資料について、各学校でダウンロードして活用できるよう、東京都教育委員会のホームページの「学び応援ページ」内「道徳教育」のページに掲載します。

「理数教育の窓」

— 理数好きの子供たちを育てるために —

「くらしと環境 学習 web」を活用して、理科等の授業の充実を！

東京都教育委員会では、ホームページに「くらしと環境 学習 web」を掲載しています。
この「くらしと環境 学習 web」は、次のような構成になっています。



「小学生向け」と「中学生向け」には、それぞれ「学習のページ」、「実験（活動）のページ」があります。

「学習のページ」では、東京都の自然や環境問題に対する取組などについて、様々な写真やデータを掲載しており、理科等の学習における資料、先生方の資料として活用することができます。

また、「実験（活動）のページ」では、大気汚染や水質汚濁をはじめ、身の回りの環境を調査する具体的な方法を掲載しており、理科等の授業において実践できる事例が多数あります。

「環境教育カリキュラム」のページでは、自然・生命に関する内容、エネルギー・地球温暖化に関する内容などについて、生活、社会、理科、家庭、技術・家庭、総合的な学習の時間の事例を紹介しています。学習の展開例のほか、関連する単元や関連する「くらしと環境 学習 Web」のページなどを掲載しており、先生方が授業を進めていく上で役立つ構成となっています。

